

甚風呂の塀を修繕しました

甚風呂の入り口東側3ヶ所の塀の漆喰が浮き、ひび割れている箇所があり、土が落ちてきている状況になっていました。雨などの影響によるものだと考えられます。このたび、漆喰をすべてはがし、下地を補修したうえで、あらためて漆喰の仕上げ塗りをして美しい状態を取り戻しました。



着工前



修繕後

～湯浅の歴史について学ぼう～ 第10回

明治以降、湯浅のまちは有田地方の中心として近代化が進みます。中でも、交通の発展は大きな変化を生みます。大正4年(1915)、金屋口と湯浅を繋ぐ有田鉄道が開通しました。北橋付近には貨物専用の「海岸駅」が、現在の簡易裁判所付近に「湯浅駅」が置かれ、拡張された大宮通り・蔵町を通過して、蔵町西端の海岸で発着する汽船とを結びました。湯浅港は、有田地方唯一の定期航路があって、大阪や名古屋と繋がっていました。昭和2年(1927)の国鉄「紀伊湯浅駅」開業により、人々や物資の移動は鉄道を使った陸路になり、湯浅町内の有田鉄道は戦時中にレールが供出され、その役目を終えました。



蔵町西端の湯浅港の様子

鉄道と海運

湯浅伝建地区保存協議会

皆様に瓦版をより身近に感じてもらうために、まちなみ瓦版の記事を募集しています！ご意見・ご要望などございましたら、右記のまちなみ瓦版編集委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五
妻木 良三
道津 節子
楠山 吉雄
油谷 太一



まちなみ瓦版

■令和2年11月2日
■第53号(案)
■発行：湯浅伝建地区保存協議会
■発行責任者：木下 智之

伝建地区に観光客の姿が戻ってきました

2月以降、コロナウイルス感染拡大の影響で観光客の姿を見かけることが非常に少なくなっていました。人が集まるようなイベントの開催が出来ず、甚風呂等の施設を閉館する時期もあり伝建地区内に活気がなくなっていました。しかし、9月頃から自粛の規制が緩まり、徐々に観光客の姿を見かけることが多くなってきました。観光バスも来るようになり甚風呂等の施設を訪れる方も多くなりました。また、後の雛まつり等のイベントを開催し、NHKやテレビ和歌山の取材がありその反響も大きく、現在はコロナ禍以前の観光客数に戻りつつあります。現在日本遺産巡りスタンプラリーが行われています。

Facebookで紹介されています

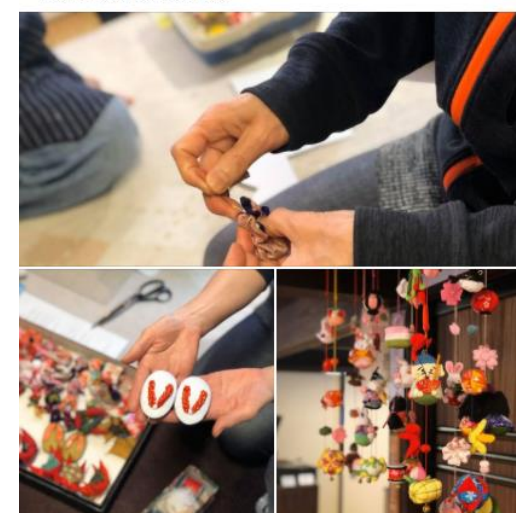
湯浅観光まちづくり推進機構のFacebookで伝建地区内の様子が取り上げられています。あじさいオープンガーデンや吊るし飾り作りの様子が下記のように紹介されました。湯浅観光まちづくり推進機構のFacebookでは湯浅町のことが取り上げられており、その中で伝建地区も紹介していただいています。右記QRコードからご覧いただけます。

湯浅観光まちづくり推進機構
5月27日・📍
伝建地区で「あじさいオープンガーデン」が開催されていると耳にして、早速取材へ行ってきました！
町を歩くと「ここにも！あそこにも！」
少し路地を入ると、色とりどりのあじさいを見つけることができます。なんだか探検しているようです！
展示されているあじさいの種類は、なんと200種類以上！町を散策しながら「あじさい探し」を楽しむのも面白いですね！(甚風呂のお庭にも見つけました！)
まだ蕾が多く、見ごろは来週以降だそう。
満開を楽しみます！
また、北町ふれあいギャラリーでは「アジサイ写真展」を開催しています。
地元の方が製作した可愛いカタツムリたちと一緒に、個性豊かな写真が並びます。
是非お気軽にお立ち寄りください。

湯浅観光まちづくり推進機構
3月17日・📍
【町の中の小さな動き】
「かえらしまあ〜(=可愛いなあ)」「上手いことできた！」そんな楽しそうな声が聞こえてきたので立ち寄ってみると、何やら「ものづくり」に励むおばちゃん達の姿が...
「こんにちは〜！」と声をかけてみると「こんにちは〜！お姉ちゃんも入っちゃいな〜(=入っておいで〜)」と、見知らぬ私をすんなり迎え入れてくれました。
彼女たちが作っていたのは、吊るし飾り。
町の人が病に負けないようにと願いを込めて、「一生の災厄の身代わりになる」と伝えられている吊るし飾りを湯浅町民全員分(12000体)作るというのです。それも町の人が材料を寄付して、自ら製作しているというから驚きです。
突然現れた私に「若い子が入ってきてくれると嬉しいよ。湯浅はええ町やからなあ。私たちもできることしたいなあと思ってね。ちょっとでも湯浅の町が元気になればいいね。」と語ってくれました。
町の人が楽しそうに話している姿を見ると「やっぱりこの町、あったかいなあ」と感じるのでした。



+4件



重陽の節句後の雛まつり 大盛況でした！！

9月6日（日）から10月11日（日）の期間で「重陽の節句後の雛まつり」を開催しました。それに合わせ「吊るし飾り12000体プロジェクト作品展」も開催しました。後の雛まつりは江戸庶民の間であった風習であり、吊るし飾りは山形県、静岡県、福岡県等全国各地で行われています。北町ふれあいギャラリー、甚風呂では雛人形、提供いただいた吊るし飾りが色鮮やかに展示されました。岡正、塩路家、立石茶屋では雛人形が飾られました。テレビで取り上げられ、その反響も大きく多くの方が訪れ、笑顔で楽しんでいました。SNS等にもアップされ大好評でした。コロナ禍の今、元気を与えるものとなりました。



甚風呂の様子



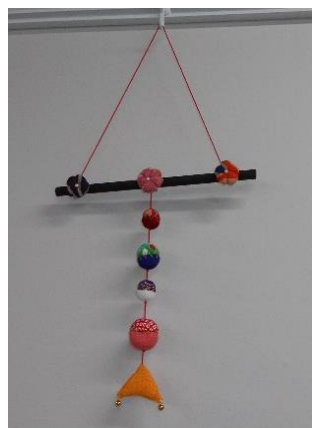
立石茶屋の雛人形



北町ふれあいギャラリーの様子

吊るし飾り作り体験教室

10月4日（日）14時から北の町老人憩の家で実施しました。講師に中野孝子さんを迎え、一人一人に丁寧に教えていただきました。参加した15名の方は教え合い、協力しながら和気あいあいと吊るし飾り作りを楽しんでいました。吊るし飾り作りに集中し静かになる場面もあり、充実した2時間となりました。



作成した吊るし飾り



吊るし飾り作成の様子



12000体プロジェクトからのお知らせ

吊るし飾りたくさん集まっています

今年の3月から開始した吊るし飾り12000体プロジェクトに関して町外の方からもたくさん作品を提供いただき3043体の吊るし飾りが集まりました。（10月1日現在）一度作品展を開催したことにより興味をもっていた方も増えたと感じています。提供いただいた作品は一度返却し、今後のイベントの際に提供いただくようにしています。

12000体プロジェクトでは、吊るし飾りを作成していただけるサポーターを募集しています。興味のある方はお問合せ下さい。

問合せ先：銭湯跡歴史資料館「甚風呂」

〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅428

電話：0737-20-2033

開館時間：9時30分～16時30分

休館日：水曜日（水曜日が祝日の場合は翌日が休館日）

伝建トピックス

うすくち醤油のまち「龍野」が重伝建の仲間入り

以前、視察研修に訪れた兵庫県たつの市が令和元年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。全国で119番目、商家町、醸造町として選定されました龍野は淡口醤油の発祥の地として知られており、醸造等に関わる重厚な土蔵等をよく残し、中世を起源とする西播磨の城下町としての町並みを形成しています。そのほかにも、寺院、洋風住宅が点在し町家を改装したカフェ等もあり、様々な表情を見ることが出来ます。また、映画「男はつらいよ寅次郎夕焼け小焼け」のロケ地として知られています。

今後も他の伝建地区を紹介していく予定です。



町並みの様子

